

【報告】 アンチ・ドーピング規則違反防止活動

「ドーピング規則違反を未然に防止！？ワールドクラスの選手に起きた事例

～山形県スポーツファーマシストの活躍～」

<内容>

ドーピング検査対象選手が練習中に発熱し、鼻血も止まらなくなった。選手の状態からチームスタッフが医療機関を受診を勧めた。選手は受診し、お薬が処方された。

チームスタッフから処方されたお薬がドーピングに抵触しないか確認の必要があると医師に話があった。

処方箋を受け付けた薬局の薬剤師、受診した医療機関の医師共にドーピングに関する知識を持たなかったため、近隣の薬局のスポーツファーマシストに薬の使用可否の確認を依頼した。

確認した結果、アンチ・ドーピング規則違反に抵触しないことが判明したので、選手は処方された薬を内服し、治療に踏み込むことができた。